

2022年秋年末闘争・組織拡大

CTGの建交労道本部闘争速報

2022年10月12日/第3号

〒060-0909 札幌市東区北9条
東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

2022年なくせじん肺北海道キャラバン 出発集会後に道庁へ要請

2022年（第33回）なくせじん肺北海道キャラバンは、10月7日に出発集会（なくせじん肺北海道会議総会）のあと、道庁に要請行動をおこないスタートしました。出発集会では、北海道建設アスベスト訴訟の藤本明弁護士団長のあいさつに続いて道内のじん肺訴訟（北海道じん肺訴訟＝石炭／北海道建設アスベスト訴訟／トンネルじん肺根絶第7陣訴訟）の現状などについて報告されました。また10月3～5日の「全国一斉電話相談」では、建設アスベスト給付金を中心に道内で82件という多くの相談が寄せられたという報告もありました。そして各訴訟の解決とじん肺被災者の権利をめぐる問題についてとりくむ活動方針を確認するとともに、各自治体・労基署への要請や北海道労働局要請などの行動への参加を確認しました。

道庁への要請では経済部・建設部・環境生活部の担当者が対応しました。道が発注するトンネル工事は現在1か所が施工中（近くもう1か所を発注予定）で、「共通仕様書」などでじん肺防止対策を要請していると回答しましたが、ガイドラインが守られているかどうかや現場で8時間労働になっているかなどを道の職員（監督員）や委託コンサルタントが確認するよう求めました。また、アスベスト台帳はレベル1については民間の建造物をふくめて整備されているものの、レベル2は道の管理する建造物の煙突だけしか台帳化されておらず、レベル3についてはまったく手が付けられていないし目標期限も決めていないことが明らかになりました。そして、アスベストアナライザーについて「有用性に疑問がある」からと道として導入することに消極的な回答を繰り返したため、厚労省や他県、札幌市（昨年2台目を購入）のとりくみを伝えながらその姿勢を批判しました。

釧路で「トラックの日」の宣伝行動

釧路地域支部トラック部会は「トラックの日」の宣伝行動にとりくみました。10月9日が日曜日でトラックが少ないため8日にくり上げて実施し、6名が参加して釧路市内入り口のコンビニ駐車場と隣町の白糠「恋問道の駅」駐車場で、全国トラック部会が作成した「マスク・ティッシュ付チラシ」とアンケート用紙を返信用封筒といっしょに24台のトラックドライバーに手渡しました。太平洋運輸分会も職場で同様の行動をおこないました。

JR北海道との経営協議会で提案

10月5日にJR北海道との経営協議会が開かれ、会社側は各部署から担当12名と建交労北海道鉄道本部三役の15名が参加しました。「上期主要施策の取組状況と下期の取組」について、会社からコロナ禍のもとで取り組まれた施策と達成状況が報告され、下期にむけて海外からの旅行者増や全国旅行割引の実施による鉄道利用者拡大にむけて収入回復を目指す企画が紹介されました。

建交労からは、沿線自治体に「ふるさと納税」の返礼品にJR商品の利用を依頼することや、これまでに建交労が話題にとりあげた苗穂運転所での撮影会が盛況だったこともふまえて、鉄道ファンを引き付ける取り組みとしてJRイン函館で40形の運転室を活用した客室を展開するなど今後も特急列車で活躍した183形や281形の運転室活用や運転士の指導訓練で使ったシミュレーションを客室で再利用するなど会社が持つ資源を大いに活用した取り組みがおこなわれるようエールを送りました。また、新幹線開業に向けて札幌駅の商業施設が閉店になったことについて「移転して営業継続はできなかったのか」を質すとともに、新幹線開業に向けて賛否両論はあるが社員に対して工事の進捗など「明るい話題」について社内誌を活用して周知していくことも求めました。